

第6学年 社会科の実践

- 1 単元名 ともに生きる暮らしと政治「2わたしたちの暮らしを支える政治」
 ～エアコン設置から市の政治を学ぼう～（全10時間 本時7時間目）

2 単元目標

- 地方公共団体の政治の働きについて理解するとともに、統計などの各種資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身につけるようにする。
- 地方公共団体の政治の特色や生活との関連や意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会へのかかわり方を考え、考えたことを説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。
- 地方公共団体の政治の働きについて、主体的に学習問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、日本の将来を担う国民としての自覚を養う。

3 「ひびき合う三の丸の子どもたち」にせまるために

研究課題「子どもが解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」
手だて…子どもの願いや思いの育ちを見とった単元構想と授業づくり
高学年ブロックテーマ「仲間への理解、自立する自分」

- ・ 仲間を理解しつつ、自分の思いも大切にする姿
- ・ 新しい価値観にふれ、自分を再構築する姿

<話す・聴くについての指導>

友達の考えを集中して聞いているように見えるが、理解しようとしながら聞くことは十分にできていない。そのため、友達に対して「それってどういうこと？」などと問い返す発言が少ない。聞いている子どもたちの理解が不十分であると感じたときには、教師の方から「〇〇さんの意見わかった？」「〇〇ってどういうこと？」と確認したり、「〇〇さんが言ったことを、自分でも言える人？説明できる人？」と促したりしている。今は教師がファシリテーションをしている段階だが、このような声掛けを続けながら、友達の考えを理解しようとしながら聞く態度や、自ら問い返す力を育てていきたいと考えている。また、「反応しながら聞く」ことを繰り返し指導している。友達の考えを受け止めしっかり聞いていなければ、反応することはできない。また、反応することから「え、ちょっと待って。それって…」「でもさ…」など、ひびき合いにつながる発言が生まれると考えている。

話し合いでは、自分の考えに自信がもてず、なかなか発言できない子もいる。どうしても発言できない子がいると、近くの友達がかけ寄り、その子の意見を聞いて代わりに発言しようとする姿が見られる。そのような子どもたちの温かい雰囲気大切にしながら、「自分で発言できない場合は、友達の力を借りてもいいから自分の考えを表現しよう」ということを繰り返し伝えている。また、全体の話し合いで発言する子が固定化しつつあるので、ペアトークやグループトークを意図的に取り入れている。さらに、発言耐性をつけることができるよう、折にふれて全員で「指名なし発表」を繰り返し行い、みんなの前で発言することに慣れるよう指導している。

<これまでの関わり合い・ひびき合い>

これまでの関わり合いについて、子どもたちは創意工夫を生かし、自分たちの学級生活が楽しくなるように意欲的に係活動を行っている。普段は一人で過ごすことが多い子も、係活動を通して、その子の回りに友達が集まる様子が見られる。係活動が発展して、7月7日に学級のパーティー（お楽しみ会）を開催した。普段の学校生活では、自分にとって安心できる仲のよい友達と過ごすことが多いが、パーティーを通してみんなで楽しい時間を共有することができた。また、修学旅行後や席替えをする際に「ハッピーレター」の活動を行っている。これは、同じ班になった友達に「ありがとう」や「がんばっていたね」などの気持ちを書き、互いに伝え合う活動である。この活動によって、友達の良い面に目を向けながら関わろうとする態度を育てているところである。

ひびき合いについては、国語「聞いて、考えを深めよう」の学習で、友達の意見を聞くことを通して、最初の自分の考えAがA'になったのか（深化）、AがBになったのか（変化）、 $A+B=C$ になったのか（統合）、どのように変容したのかを意識するように指導した。そのため、話し合いの最中には、友達の意見を積極的にメモしながら聞くようにした。そして、「なるほど」「納得した」「そういう考えもあるんだ」というような、自分の心が動いた意見には線を引き、友達のどの意見がきっかけとなって自分の考えが変容したのか意識できるようにした。この単元の振り返りでは、「自分は最初〇〇がよいと思っていたけど、友達の意見にとっても納得したので、最後は△△がよいと思うようになった。意見が変わった。」「自分の意見は変わらなかった。Aさんは私と同じ意見だったけど、私とはちがう理由を言っていて、それがとても納得できていいと思った。だから、自分の意見が強くなってAがA'になった。」のように、自分の考えの変化を意識した記述が多くみられた。ひびき合いとは具体的にどういうことなのか、どのような手順を追ってひびき合っていくのかをみんなで体験し、「ひびき合い」のイメージを共有することができた。

学校保健委員会のテーマ「元気に体を動かそう」についてクラスで話し合った際には、高学年は外遊びをする人がとても少ないので、週1回行っているクラスの遊びを週2回に増やそうという意見が出た。体を動かす機会が増えるのでいい、クラスの遊びを増やすと仲が深まりクラス目標に近づけるという理由が挙げられた。しかし、自分の時間もほしい、休み時間は係活動の準備や読書などもしたいという理由で反対する子もいた。この話し合いでは、「自分は週2回がいいと思うけど、休み時間に係活動や読書をしたっていい理由はよくわかるよ。」「でも、確かに週2回にした方が、外遊びをする機会が増えるね。」など、自分とはちがう立場の意見を理解しようとしながら聞く姿が見られた。そして、互いの意見を尊重し合い「今までのように週1回は全員参加にして、もう1回は自由参加にしたらどうかな。」という納得解が生まれた。自分とは違う意見も一旦受け止め、相手の立場になって理解しようとすることによって、みんなにとってよりよい方法を生み出すという経験をすることができた。

4 単元と指導について

<単元について>

本単元では、地方公共団体の政治の働きについて学習する。学習指導要領の内容には「国や地方公共団体の政治は、国民主権の考え方の下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解すること。」とある。市民生活の中で、一人では解決できない課題となっている事象を取り上げる。そして、市民にとっての課題や願いが、地方公共団体の政治によってどのように実現していくのかその過程を追究していくことを通して、市役所や市議会の役割を理解し、それらと市民との相互の関係をとらえてい

く。また、地方公共団体は、限られた予算の中で取り組みを決めていくため、住民の願いをすべて実現することはできないが、選挙や陳情などの手段で市民が政治に関わっているということをとらえられるようにする。

<指導について>

子どもたちが切実感をもって政治について考えることができるよう、子どもたちにとってとても身近な「普通教室のエアコン設置」の事例を取り上げることにした。ここ数年、夏になると非常に気温が高くなり、普通教室のエアコンはなくてはならないものとなっている。単元の導入では、6年生の子どもたちが3年生の時にエアコンが設置されたことに触れ、「それまでは扇風機しかなかった。」「今では考えられない。」「エアコンがなかったら勉強に集中できないよ。」という思いを引き出す。そして、2019年6月、小田原市内の全小中学校の普通教室669室に一気にエアコンが設置されたという新聞記事を提示し、「エアコンはどのように設置されていたんだろう？」という問いから学習を進めていく。子どもからは、いくらかかったのか、誰が決めたのか、設置までにどれくらいの期間がかかったのかなどの疑問が出されると考える。予算については、市長が設置を決めた後、市議会でエアコン設置のための補正予算を審議したときの資料を提示する。この資料により、予算は市議会で話し合われることや、エアコン設置のために約21億円もの予算が必要であることがわかる。単元の前半では、新聞記事や市議会の資料、小田原市の歳入・歳出のグラフなど様々な資料を提示し、それらを丁寧に読み取ることにより、本時に自分の考えをつくる際に根拠をしっかりとめるようにする。

さらに詳しいことを知るために、当時、小田原市役所学校安全課でエアコン設置の業務を担当していた方から教師が話を聞き、聞いた内容を資料にまとめて子どもたちに提示する。また、エアコン設置までの過程を知ることによって、市長が設置を決断した背景には、小学生の子どもをもつ市民が約1万5000人もの署名を集めたことや、2018年の夏が特に暑く、愛知県の小学校で熱中症による死亡事故があったことなどもとらえられるようにする。

本時に子どもが解決したい問題は「市長はなぜ、もっと早くエアコンを設置しなかったんだろう？」である。子どもたちは、市長は約1万5000人もの署名が提出されたから設置を決断したと考えるだろう。しかし、市長は子どもたちの学習環境を整えるため、また子どもたちの健康を守るためにエアコン設置を以前から考え検討していたはずである。本時まで、「市長は署名が提出されたからエアコンを設置したんだろう」と考えていた子どもたちの思考をゆさぶり、市長の立場に立って考えるとどのような思いが見えてくるのか話し合いを通して気づかせたい。そのため、「根拠をもって考え、話し合いを通して市長の思いを多面的にとらえる姿」をひびき合いの姿とする。しかし、最終的には「市長の思いは、市長に聞いてみないとわからないよ。」という思いに到達すると考える。次時に、エアコン設置を決めた当時の市長をゲストティーチャーとして迎え、実際に話を聞いて自分たちの意見を確かめたい。

ノート指導については、まず、自分の考えをしっかりと書かせる。これによって、自分の考えを明確にするだけではなく、授業の最後に自分の考えの変容を確認することができる。また、必要に応じて統計資料をノートに貼り、自分の考えをつくる際に根拠を持てるようにする。さらに、子どもが書いた考えや学習感想等に対して、「積極的に朱筆を入れるようにする。」（子どもの考えを深めたり、よりはっきりさせるために問い返しを記入したり、次の問題につながりそうな記述に朱筆したりする。）

5 単元構想

単元目標 ○地方公共団体の政治の働きについて理解するとともに、統計などの各種資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身につけるようにする。
○地方公共団体の政治の特色や生活との関連や意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会へのかかわり方を考え、考えたことを説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。
○地方公共団体の政治の働きについて、主体的に学習も問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、日本の将来を担う国民としての自覚を養う。

教室にエアコンがついたのは、何年生の時か覚えてる？

- ・5年生の時にはついてたな。
- ・3年生か4年生の途中だったと思う。
- ・つく前は、扇風機だった。ないのが普通だったよ。
- ・熱中症になっちゃう。
- ・勉強に集中できない。家に帰りたくなる。
- ・暑くて死んじゃうよ。

・まだ、教室にエアコンがついていなかった頃の様子を振り返る。
・資料：2019年6月28日付の神奈川新聞の記事「教室のエアコン 設置率100%に 小田原」

エアコンはどのように設置されていったの？①

- ・自分たちが3年生の6月についた。3年前だ。
- ・小学校25校、中学校10校の669教室についたんだって。
- ・小田原市では、それまで教室にエアコンはついてなかった。
- ・もう、エアコンがついてない教室は考えられない。

政治の働きについて問いを見出し、学習問題について表現している。【思・判・表】

いくらかったの？	誰が決めたの？	どれくらいの期間かったの？
・お金はどうしたのかな？ ・1台20万円とすると1億380万円かかると思う。 ・県や国が補助してくれたの？ ・電気代はどうしているの？	・市長が決めた。 ・市議会で話し合った。 ・選挙で決めたのかも。	→1年以上はかかってそう。 ・いつ工事したの？ ・どんな人が付けたの？ ・つけるのに必要な人数は？

- ・基本的な権（教育を受ける権利）を守るためにエアコンをつけたと思う。

- ・エアコン設置がいろいろなことにつながっている。 → **エアコン設置から市の政治を学ぼう**

いくらかったの？②

- ・21億9917万円だった。小田原市にこんなお金があるの？
- ・こんな大金、どこから？
- ・このお金は税金だね。教育費と関係がありそう。
- ・1台328万円にもなる。
- ・2018年、自分たちが2年生の9月の市議会で話し合われている。
- ・予算は市議会で話し合われるんだ。
- ・2018年の9月に予算が追加されてるってことは、4月にはまだ設置する予定はなかった。
- ・何でもっと早く設置しなかったんだろう？

資料：平成30年小田原市議会9月定例会「小田原市議会一般会計補正予算（追加）、令和4年度小田原市の予算（歳入、歳出）」

エアコン設置には税金が使われ、市の予算は市議会で話し合われることをとらえている。【知・技】

こんな大金どこから？③

<学校安全課 本多さんのお話>

- ・2018年の8月に、加藤市長が設置を決めたみたい。
- ・市長はなぜ、エアコンの設置を決めたんだろう？
- ・その後、1ヶ月で予算の計画を立てている。
- ・国から3億3700万円補助金をもらったんだって。
- ・やっぱり国からお金をもらっていた。
- ・12月から工事が始まって、半年で全部の学校でエアコンが稼働している。
- ・なぜ半年で全部つけられたのかな？
- ・国が補助金を出すのは、憲法の考えが元にあるからだ。
- ・市の税金は、市民のために使われている。

・学校安全課 本多さんから聞いた話をまとめ、資料として配付する。
・市長がエアコン設置を決めてから半年で全部のエアコンが設置されたことがとらえられるように、時系列をわかりやすくまとめて示す。

エアコンが稼働するまでの過程を理解している【知・技】

市長はなぜ、エアコン設置を決めたんだろう？④⑤

- ・市民が「つけてください」ってお願いしたから。
- ・この年が、とても暑かったんじゃない。
- ・快適な環境で子どもたちに学習してほしいと思った。
- ・熱中症を防ぎたい。・ほかの市もつけてるから。
- ・学校が避難所になったときに使える。

どんな人が付けたの？⑥

- ・小田原市内の業者50社で協力したんだって。
- ・材料、電気、フェンス、ガス、コンクリート、木を切る会社に関係している。
- ・ものすごい人数の人たちが関わっているんだって。
- ・子どもたちのために、たくさんの人が協力してたんだね。

資料：施工業者から送られたボード

市内の業者が力を協力して施工したことを理解している。【知・技】

なぜ半年で全部つけられたのかな？⑥

- 子どもたちの健康を守るため。
- 熱中症で子どもたちを死なせてはいけないから。
- お母さんたちの要望があったから。
- 子どもたちの命を守るために市長は決断したし、職人さんたちも協力してくれたんだと思う。
- 市長、市役所の人、職人さんたちがみんなで協力し合った。

加藤前市長に話を聞こう⑧

- ・なぜ、2018年にエアコン設置を決めたんですか？
- ・いつから設置を考えていましたか？
- ・設置したきっかけは何ですか？
- ・きっかけがなければ、設置は遅れていましたか？
- ・エアコンを設置以外に、優先されることはありましたか？
- ・市民のために、他にどんなことをしていますか？

エアコンの設置についてさらに知識を広げたり、まだわからないことを質問したりする。【知・技】

何でもっと早く設置しなかったんだろう？⑥⑦(本時)

2018年より前、市長はエアコンを…

まだ設置しなくていいと思っていた

- ・愛知県で小学生が亡くなった。それまでは、熱中症が少なかった。
- ・2017年までそんなに暑くなかった。
- ・扇風機で何とかなっていたから、市長は油断してたんじゃない？
- ・お金がかかる。いつもの年の3～4倍必要って言ってたじゃん。
- ・他のことに使えなくなる。いざという時に使えないと困る。
- ・前の年にたくさん使っちゃったんじゃない。
- ・それまでは、署名が出されなかった。

設置しようと思っていた

- ・もともと設置しようとは思ってた。でも、きっかけがなかったから踏み切れなかった。きっかけができて「やっとなる」と思った。
- ・動機がないとつけられない。
- ・愛知県のような事故があつてからでは遅いよ。
- ・市長は、市民に安心してもらいたいと思ってた。
- ・本当のところはどうだったのか、市長に聞いてみたい。

子どもたちに、もう一歩立ち止まって考えさせるために、小田原市は県の中でも設置が遅かったことを示す資料を用意しておく。

市長がなぜもっと早くエアコンを設置しなかったのか、話し合いを通して多角的に考える。【思・判・表】

学習したことをまとめよう⑩

自分たちの暮らしと政治の働きとのつながりについて考え、表現している。【思・判・表】
これまでの学習を生通して、自分の考えをまとめようとしている。
【主体的に学習に取り組む態度】

6 本時について

(1) 本時目標 市長がなぜもっと早くエアコンを設置しなかったのか、根拠をもって考え、話し合いを通して市長の思いを多面的にとらえることができる。

(2) 本時展開

学 習 活 動	主な支援・留意点 ◆評価【観点】
なぜ、市長はもっと早くエアコンを設置しなかったんだろう？ 予算が心配 それほど暑くなかった 署名が出されていなかった 加藤市長 ・税金が足りない。19億8000万円もかかる。 ・いつもの3倍もの予算が必要 ・他のこともある。 ・熱中症もそこまでない。 ・死亡例がなかった。 ・扇風機で足りている ・つけてほしいという人がいなかった。 ・まだ署名が集まっていなかった。 ↓ ・署名をきっかけにつけようと思った。 ・署名が多くないとつけたりしない。 ・油断していた。 ・保護者や市民ほど心配していなかった。 ・このくらいならだいじょうぶ ・困ってないだろうと思っていた 2018年より前、市長はエアコンを 設置しようと思っていた まだ設置しなくていいと思っていた (ネームカード)	・本時までに考えをノートに書いておき、意図的に指名ができるように個々の意見を把握しておく。 ・発言するときは、根拠を持って発言ができるようにする。(統計資料、新聞記事、既習事項、家で聞いたことなど) ・考えの変容が分かるようにネームカードをはる。 ・「予算」「暑さ」「署名」など、発言の内容を分けて板書する。 ・自分の考えを発言できない子どもに対しては意図的に指名する。 ・再度、本時の学習問題を振り返り、終末の段階でどのように考えているのか学習感想を書く。 ◆市長がなぜもっと早くエアコンを設置しなかったのか、根拠をもって考え、話し合いを通して市長の思いを多面的にとらえることができる。【思・判・表】

7 実践を終えて

単元の導入では、普通教室にエアコンがついたのは何年生の時だったかを想起させたあと、「エアコンはどのように設置されていったと思う？」と教師の方から投げかけた。その後は、授業中の子どもの発言やノートの記述を拾いながら、単元構想を何度も書き換えた。単元構想を0次案からn次案へと書き換えていく中で、子どもの思考の流れに沿った単元構想となり、子どもたちにとって【学習課題】から【学習問題】へと変化していった。0次案の段階では、「なぜエアコンは10ヶ月でつけられたのか？」ということが子どもたちにとって切実な問題になるのではないかと考えていたが、実際は「(市長は)何でもっと早くエアコンを設置しなかったんだろう？」という問題になった。教師の視点で考えると、「設置するまでに10ヶ月しかかからなかった」と思うのだが、子どもにとっては「市長がエアコン設置を決断→市議会でも予算案を可決→担当部署が実務的な計画を立案→業者が設置」というそれぞれの実務の大変さについてイメージが持ちづらく、子どもにとっての問題にならなかったのではないかと考える。

単元の5時間目までは、「1万人以上の署名があったからエアコンが設置された。」と考える子が多かった。しかし、A君がノートに書いた「何でもっと早く設置しなかったんだろう？」という記述を学級のみんなに紹介すると、「そうだね。エアコンを設置しないと親も安心できないし、子どもたちの命に関わるのに。」「小田原市の評判も下がっちゃうかもしれない。なのになぜ、もっと早く設置しなかったんだろう。」「署名が出される前も、市長はエアコンの設置を考えていたのかもしれない。」と、子どもたちの思いは揺さぶられた。そして、「何でもっと早く設置しなかったんだろう」ということが子どもたちにとっての問題となっていく。

本時の話し合いでは、それまでの学習を振り返り、根拠をもって意見を考えた子が多かった。過去の新聞記事や議会資料、調べ学習をした中で見つけた重要な情報などは、全員に印刷をしてノートに貼っておくようにした。そのため、自分の考えをつくる際に、それまでに扱った資料を振り返り、出来事や事実、数値などを根拠として考えをつくることができたと思う。また、根拠を示しながら話し合うことを通して、「署名が提出されたからエアコンを設置した」という一方的な捉えではなく、市長は予算の問題や様々な課題に向き合いつつ、「子どもたちの命を守りたい」「何かあってからでは遅い」という市長として信念をもって市政に取り組んでいることに気づくことができた。

また、子どもたちに立ち止まって考えさせたいところで、教師が「それじゃあ、署名が提出されなかったら、市長はエアコンを設置しなかったの？」と問い返す場面があった。すると、「そういうことじゃなくて…」と、それまでとは違った視点から発言する子が続いた。教師の出番としてはよかったと思うが、今後は、子どもたち自身が問題点に気づき、自分たちで話し合いを深めることができるように指導をしていくことが課題である。そのために、考えの分布やずれ、問題点などが把握しやすい板書になるよう努めていきたい。

ノート指導については、子どもが書いた振り返りに対して、次の点を意識して朱筆を入れるようにした。

- ①自分の考えに自信を持てるよう、価値づけするコメントを書く。
- ②考えがはっきりしていない場合には、教師からの問い返しを記入し、もう一歩深く考えられるようにする。
- ③次の問題につながりそうな記述にアンダーラインを引き、「みんなで考えたいね」「市長はどう思っているのかな。」など記入する。

②については、朱筆を読んだ子どもが「先生、私はこう思うんだ。」と自分の考えを話しに来たり、家庭学習でさらに調べ学習やインタビューをしたりして、自分の考えを見つめ直す姿が見られた。しかし、まだ、振り返りの書き方が十分に身につけているとは言えない。教師から視点を示さないと、何を書いたらよいのか困ってしまう児童もいる。振り返りに書くことの視点を示しつつ、徐々に視点を示さなくても自分の思いを自由に書くことができるように指導していきたい。